

表現や構成の効果を考えて文章を書く力、取材した事実を根拠に感想・意見を書く力を育てるための指導方法の工夫 ～小学校6年国語 「書くこと」についての2つの実践を通して～

新発田市立五十公野小学校  
教諭 貝瀬 健太郎

## 1 目指した子どもの姿

昨年度は「目的に応じた文章構成について考えて書く力」「意見と理由の整合性について考えて書く力」に焦点を絞って実践に取り組んだ。意見文において自分の考えを効果的に伝えるための文章構成について考えたり、理由と整合させながら意見を述べたりすることについては一定の成果を得ることができた。しかし、文章を書く目的意識、表現の工夫の効果の実感、取材したことをもとにした自分の考えの構築に課題が見られた。このことから、目指す子どもの姿を次のように設定し、昨年度の実践を土台にしながら、更に実践を重ねたいと考えた。

- (1) 目的に応じた表現や構成について考え、工夫して文章を書くことができる。
- (2) 視点をもって取材し、取材したことを根拠として自分の考えを書くことができる。

## 2 具体的な手立て

### (1) 文章を書く目的をもたせるために、他の教科・領域との関連を図りながら単元のゴールを設定する

他の教科・領域と関連させ、目的となる活動を設定することで、文章を書く必要性や目的意識を感じられるようにする。

### (2) 表現や構成の工夫に気付いたり、効果を感じたりできるようにするために、モデル文を提示する。

見通しをもって文章を書けるようにするために、どのような文章を書けるようになることを目指すのか、具体的なゴールの姿をモデル文によって提示する。また、モデル文同士を比較することで構成や表現の工夫や効果に気付くことができるようにする。

### (3) 活用しながら取材活動を行えるようにするために、取材する視点を明確にする。

取材活動が充実するように、文章に書く内容について取材をする際に、どのような視点について見たり調べたりすればよいかを指導する。

### (4) 取材した事実を根拠として意見や感想を書くことができるようにするために、取材メモ用紙を工夫する。

取材して見つけた事実をもとに、自分なりの意見や感想を書くことができるようにしたい。そこで、事実と意見・感想のつながり意識して整理することができるように工夫した取材メモ用紙を使用する。

## 3 授業実践

### 【実践1】

#### (1) 単元名・教材

単元名 『現代版五十公野八景』に取り入れる風景を伝えるパンフレットを作ろう (全12時間)  
教材名 「ようこそわたしたちの町へ」(光村図書6年)

#### (2) 単元の実際

##### ①総合的な学習の時間と関連したテーマでパンフレット作りに取り組む

総合的な学習の時間では、江戸時代の五十公野地区の素晴らしい景色をまとめた「五十公野八景」について調べ、伝えていくという学習を行った。さらに、今の五十公野の素晴らしい景色を発見し、「現代版五十公野八景」を作るという展開を構想した。そこで、総合的な学習の時間と関連させ、『現代版五十公野八景』に取り入れたい風景を友だちや地域の人に伝えるパンフレットを作ろう。」と単元のゴールに設定した。

子どもたちは、総合的な学習の時間に「五十公野八景」を調べ、地域の名所について興味を高めていたため、「現代版五十公野八景」に入れる風景について、意欲的に取材し、パンフレットを最後まで書き切ることができた。〈下図・写真①参照〉

## ② 2つのモデル文を比較して、パンフレットの表現の工夫とその効果について考える

パンフレットという様式の表現の工夫として、次のことを捉えさせたいと考えた。

- ・見出しを工夫していて、読み手の興味・関心をひいている。
- ・写真、図、グラフなどを取り入れていて、視覚的に分かりやすい。
- ・文字の大きさや書体を場所によって変えることができ、情報が一目で伝わりやすい。
- ・ページのレイアウトに自由度があり、テキストや図などの配置を工夫している。
- ・文章は、簡潔であり難しくないように書き、読んでいて内容を理解しやすい。

また、今回のパンフレットの構成は、「表紙、題名」「目次」「内容」「裏表紙、感想、協力者・参考資料」とし、「内容」には「五十公野八景の概要」と「現代版五十公野八景に取り入れたい風景」の2つを入れることにした。

これらの構成や表現の工夫に気付くことができるように、2つのモデル文を用意して比較させた。1つは(A)上記の構成や工夫を取り入れたパンフレット、もう1つは(B)同じ内容を通常の作文の形で書いたものである。この2つのモデル文を比較することで、視覚的な工夫をふんだんに使い、読み手の興味をひきながら、伝えたいことを簡潔に伝えるというパンフレットの工夫に気付くことができた。〈下図・写真②参照〉

## ③ パンフレットの構成をもとにして取材の視点を考える

パンフレットの構成を学んだあとで、自分が紹介したい風景についてどのような項目を作り、どのような視点で取材をするか考えさせた。同じテーマの友だちとの相談はしていたが、基本的には個人作業だったため、個人差が大きく出てしまった。中には自分のパンフレットの項目を考えることができず、取材も思うようにできない児童も見られた。

## ④ 総合的な学習の時間で使用した取材メモ用紙を使う

総合的な学習の時間で使っていた横罫線の取材メモ用紙を使って児童に取材メモをさせた。使い慣れている用紙だったので、児童は調べたことを次々にメモ用紙に書いていた。しかし、そのメモからすぐに下書きをさせてしまったために、調べた事実が中心となり、自分の感想や意見が十分に書かれておらず、書き手の思いが伝わらないパンフレットも見られた。



〈写真①〉  
児童が書いたパンフレットの表紙。授業時間以外でも自主的に取材に行き、撮った写真を使っている。

〈写真②〉  
児童が書いたパンフレットの内容のページ。見出しやレイアウト、写真・イラストの使用など視覚的な工夫を実際に自分の作品に取り入れている。





そして、まとめた視点と言葉を使って「鳥獣戯画」を見ることで、新しい見方に気付かせ、絵を見る視点と感じたことや考えたことを表す言葉を習得させた。本単元では、絵を見る視点に更にいくつか加え、落谷虹児の絵画作品を分析させた。どの児童も視点を使いながら絵に表された様々な事実を読みとり、感じたことや考えたことを表す言葉を使っていた。

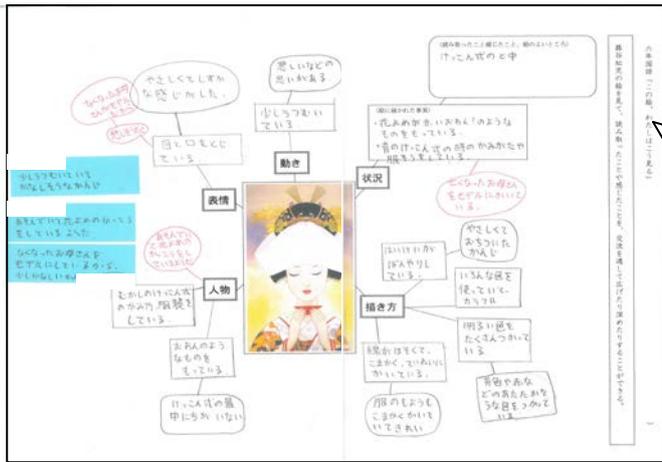
④取材メモ用紙を使って、事実と感想をつなげながら書く

絵を見て読み取った事実だけでなく、そこから自分の感じたことや考えたことを書けるように、取材メモ用紙を工夫した。中心にある絵から大きな視点の枝分かれを伸ばし、そこからイメージマップ状に絵を見て読み取った事実を書き込んでいけるようにした。また、絵を見て読み取った事実は四角囲みに書き、感じたことや考えたことはそこから伸ばした丸囲みに書くようにした。そうすることで、児童は事実から感想を区別し、事実から感想という流れを意識しながらメモを書くことができた。(下図・写真⑤参照)

最終的に書いた紹介文では、児童全員が、絵を見て読み取った事実からつながるように、感じたことや考えたことを書くことができていた。

次は、花嫁の表情だ。少しうつむいて目を閉じている。父や母と離れる悲しみや、これからの不安が感じられる。

更に、絵の描き方だ。全体的に線が細く、花嫁の気品やはかなさが感じられる。だが目を見ると線が少しだけ太く、りりしさを感じられる。きっと花嫁の不安や悲しさに立ち向かう姿を表現したかったのだろう。〔児童の書いた「花嫁」についての紹介文より〕(下図・写真⑥参照)



〈写真⑤〉  
使用した取材メモ用紙。絵を中心に置き、大きな視点の枝分かれを伸ばす。そこから事実を四角囲みに、感想を丸囲みにつなげて書く。友だちとの交流で気付いたことも付け足していった。

〈写真⑥〉  
実際に児童が書いた紹介文。絵を見て読み取った事実からつながるように感じたことや考えたことを書いている。また、モデル文の比較で理解した「自分の一番伝えたいことで書き始める」という工夫を使っている。

<p>更に絵の描き方だ。全体的に線が細く、花嫁の気品やはかなさが感じられる。だが目を見ると線が少しだけ太く、りりしさを感じられる。きっと花嫁の不安や悲しさに立ち向かう姿を表現したかったのだろう。</p>		<p>花嫁の気持ちは、不安、悲しさを表現している。花嫁の表情は、少しうつむいて目を閉じている。これは、父や母と離れる悲しみや、これからの不安が感じられる。また、モデル文の比較で理解した「自分の一番伝えたいことで書き始める」という工夫を使っている。</p>
---	--	---

### (3) 考察

- 書き出しを工夫した2つのモデル文を比較させることで、児童は書き出しによって受ける印象の違いや書き出しの効果を感じると共に、それぞれの書き出しのよさを見つけることができた。
- 絵を見る視点を習得させたことで、どの児童も絵を見て複数の事実を読み取ることができた。視点をまとめた掲示物も、感じたことや考えたことを表す言葉をまとめた掲示物も、児童が自分で絵を見る際に活用されていた。
- ワークシートの工夫によって、事実と感想を区別しながらメモすることができた。また、紹介文を書くときも、事実とつなげながら感想を書くことができてため、書き手の思いがよく伝わる作品が多かった。

## 4 成果と課題

### (1) 成果

- ① 他の教科や領域の学習内容と関連させ、書くことの目的となる活動を設定することで、児童は目的意識をもって書く活動に取り組むことができた。また、見学や調べ学習を十分に取り入れることもでき、児童の興味・関心や意欲を高めながら学習を進めることができた。
- ② モデル文の比較は、構成や表現の工夫とその効果に気付かせる上で有効だった。実践1のモデル文の比較は、内容は同じだが書き方が全く違うものの比較であり、児童は、パンフレットという様式の特徴を明確に理解することができた。実践2のモデル文の比較は、書き出しのパターンを変えた2つの文の比較であり、児童は、それぞれの書き出しの効果やよさを理解することができた。目的によって、モデル文の比較の仕方は異なってくる。今回の実践を通して、モデル文の比較の方法を広げることができた。
- ③ 書く内容の取材を充実させるためには、取材の視点をもたせることが必要である。実践1では十分な指導ができていなかった。しかし、実践2では、別の単元と関連させて視点を学習することで取材の視点を習得し、取材を充実させることができた。整理した掲示物は児童が取材をする際に活用されていた。
- ④ 取材メモを工夫し、事実と感想の書き方を区別したり、線をつないだりすることで、児童は、事実と関係づけながら感想をもつことができた。それによって、書き手の思いが読み手に伝わる文章を書くことができた。

### (2) 課題

- ① 取材メモをもとに文章を書かせたが、文章構成に苦労した児童がいた。取材メモに書いたことを文章化する部分で困っていたようである。取材メモからすぐに文章にするのではなく、構成メモを用意して組み立てを考えながら文章にしていくと、困難が減ったと思われる。構成メモの工夫も考える必要がある。
- ② 習得した文章の書き方を定着させたり、書く文章の質を高めたりするためには、繰り返し活用させることが大切である。他の教科や領域と関連させながら活用を場を計画的に用意するようにしていきたい。